

「活動の概要と研究成果」

NO.J2412

活動題目: インド算術写本の調査研究: 『トリシャティー』を中心に

所属: フランス国立科学研究センター (CNRS) SPHERE 研究所

氏名: 徳武 太郎

本調査の目的は、インドで活躍した数学者シュリーダラ (800年頃) がサンスクリット語で著した算術書『トリシャティー』(『三百[詩節]』)の現存写本を蒐集することであった。同書は初心者のための簡便な数学の教科書であり、後世の数学者たちにより頻繁に引用され、長期にわたり読み継がれてきた。このことは、今でもインド全域を通して20以上の写本が現存することから推察される。『トリシャティー』は1899年に一度出版されているが、その刊本には編者が参照した写本の情報が与えられていないという重大な問題点がある。それにもかかわらず、先行研究のほとんどが同刊本にのみに基づいており、今もなお『トリシャティー』の研究は基礎資料を欠いた状態が続いている。この現状を打開するためには、現存写本を可能な限り蒐集した上で、詳細に比較し、新たな校訂本を作成する必要がある。本調査は、校訂本作成プロジェクトにおける第一段階に位置付けられる。

2024年5月末～8月にタミルナードゥ州チェンナイ、ケーララ州ティルヴァナンタプラム、ラージャスターン州ジョードプル、ウッタルプラデーシュ州ラクナウ、西ベンガル州コルカタの5地域にて調査を実施した。その結果、合計8本の『トリシャティー』の写本のコピーに加えて、他の関連文献の写本のコピーを37本入手することができた。報告者が既に所有していた『トリシャティー』の写本と合わせると、合計21本の写本が利用可能となった。これらの写本の分布を調べた結果、『トリシャティー』の写本は南インドよりも北インドの図書館に多く所蔵されていることが判明した。断定することはできないが、このことは南よりも北で『トリシャティー』が広く読まれていたことを示唆する。調査終了後から、本調査で得られた写本をもとに『トリシャティー』の校訂本の作成に取り組んでいる。今後数年を目処に校訂本を完成させ、単著での出版を目指す。